

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-183445

(43)Date of publication of application : 28.06.2002

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number : 2000-384395

(71)Applicant : MYTRIP NET KK

(22)Date of filing : 18.12.2000

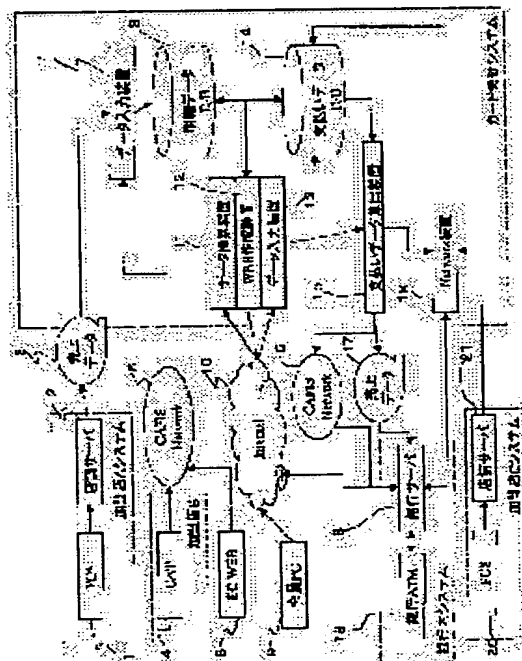
(72)Inventor : OKATAKE HIROSHI
OGASAWARA TAKAHIRO
TSUJIMOTO MUNEO
WADA TOSHIHIRO
ITO HISAHIRO
HAYASHI KAZUHIRO

(54) CREDIT CARD CHARGE PAYMENT SYSTEM USING NETWORK AND ITS STORAGE MEDIUM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a credit card charge payment method using a computer bidirectional communication network for allowing a member to freely control the payment.

SOLUTION: A plurality of payment methods through an automatic transfer, a bank branch counter, a bank ATM, a retailer shop counter, and the Internet Web site are shown to the member, and using the computer bidirectional communication network, the member can select the payment method freely in every payment and can designate an amount of payment in every payment. A charge designated to clearing payment in use is handled by clearing payment until the following month of use, and a balance unpaid until that date is automatically included in a revolving balance. In this way, the member can control the payment according to own financial state.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision]

(43)公開日 平成14年6月28日(2002.6.28)

402

最終頁に続く

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 クレジットカードの利用代金を決済する方法において、

前記クレジットカードの利用明細データをデータベースに格納し、前記データベース管理をするステップと、前記格納された当該利用明細データを登録されたカード会員のリクエストに基づき、コンピュータによる双方向通信網を利用して、検索し、表示し、更に前記カード会員が、希望する支払方法を指定し、または／及び、支払い金額を指定するステップと、各前記カード会員の利用の履歴、及び支払いの履歴を前記データベースに記憶し、格納するステップと、前記記憶された履歴から、支払うべき残高、および利子を計算し、新たな残高を算出するステップと、を有することを特徴とするクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 2】 前記カード会員が、希望する支払金額及び支払い方法を、前記コンピュータ双方向通信網を利用して、支払いの都度、指定することができることを特徴とする請求項 1 記載のクレジットカード代金の決済システム。

【請求項 3】 前記支払方法において、前記カード会員が銀行口座自動引落しを希望し、予め設定された締切日の前であれば、希望する支払金額を自由に、指定、または、変更することができることを特徴とする、請求項 1 または、請求項 2 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 4】 前記支払方法は、クリア払い（一括支払い）、分割払い、リボ払い等の支払方法を設定できることを特徴とする、請求項 3 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 5】 前記銀行口座自動引落しは、振込み人欄に記載されたカード会社の指定するコードによって、個別識別が行われ、希望の支払金額を指定銀行口座に振り込むことによって支払いとなされることを特徴とする請求項 1、または請求項 2 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 6】 前記銀行口座自動引落しは、その引き落としに指示がないときは、無条件に残高を全額引き落とす、残高の指定比率で算出した額を引き落とす、残高が指定額未満の場合は全額を指定額以上の場合は指定額を引き落とすの何れかの方法を選択してその方法を設定できることを特徴とする請求項 5 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 7】 前記カード会員が、前記希望の支払金額をカード会社と提携した小売店舗の店頭で支払うことを特徴とする請求項 1、または請求項 2 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 8】 前記カード会員が、前記希望する支払金額を、前記カード会社の WEB サイトを利用して自由に

指定し、その支払いを、デビットカードシステムを経由して、自身の銀行口座から、引き落とすことを特徴とする請求項 1、または請求項 2 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 9】 前記カード会員のカード利用明細の情報を、前記カード会員に電子メールにて、カードの利用毎に提供することを可能とすることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

10 【請求項 10】 前記カード会員が利用したデータを、クリア払い処理のデータとして、扱い、あらかじめ定められた期日までに、支払いのなかった金額分については、自動的にリボ残高に移行されることを特徴とする請求項 1 乃至 8 に記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 11】 前記カード会員が、利用した前記クリア払いの処理のデータを、当月利用分と、前月利用分とにわけて管理することを特徴とする請求項 10 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

20 【請求項 12】 前記カード会員が、任意の方法で入金した金額について、リボ残高に対する支払い、前月利用分に対する支払い、当月利用分に対する支払いを、優先順序を用いて、引き当てを行うことを特徴とする、請求項 11 記載のクレジットカード利用代金決済システム。

【請求項 13】 クレジットカードの利用代金を決済する手段において、前記クレジットカードの利用明細データをデータベースに格納し、前記データベース管理をする手段と、

30 前記格納された当該利用明細データを登録されたカード会員のリクエストに基づき、コンピュータによる双方向通信網を利用して、検索し、表示し、更に前記カード会員が、希望する支払方法を指定し、または／及び、支払い金額を指定する手段と、

前記カード会員の利用の履歴、及び支払いの履歴を前記データベースに記憶し、格納する手段と、

前記記憶された履歴から、支払うべき残高、および利子を計算し、新たな残高を算出する手段と、で構成され、前記カード会員が、希望する支払金額及び支払い方法を、前記コンピュータ双方向通信網を利用して、支払いの都度、指定することができ、且つ、前記カード会員が銀行口座自動引落しを希望し、予め設定された締切日の前であれば、希望する支払金額を自由に、指定、または、変更することができることを特徴とする、クレジットカード利用代金決済システムを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) 環境下のコンピュータ双方向通信網（イントラネット、インターネット、エキストラネット、広域UNIX（登録

商標) ワークステーション等、以下、インターネットのみで示す) を通じ、クレジットカード会員 (以下、カード会員と称する) が、自分の利用したクレジット明細データを常に、確認し、支払いをコントロールすることが出来るクレジットカード支払いシステム及びその記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、クレジットカードは、支払い手法のひとつとして定着し、多くのカードが発行されている。各店舗で利用されたクレジットカードの売上データは、店舗設置のPOS (Point of Sales) 機器や、CAT (Credit Authorizing Terminal) 機器によって、電子化され、専用線ネットワークなどを経て、クレジット会社にほぼリアルタイムで届けられるようになっている。

【0003】カード会員によるカード利用データは、クレジットカード会社内で蓄積され、月に一回のデータまとめ処理が行われ、必要な利子を算出し、当月の支払い金額が確定され、利用明細書という形で、プリンターにて出力され、カード会員に郵送される。と、同時に支払額は、引落しデータとして、作成され、カード会員指定の銀行に送付される。指定銀行では、データ受け取り後、指定の銀行口座から引き落としデータに基づき、支払い金額相当分が引き落とされ、クレジットカード会社に支払われることになる。

【0004】一方、インターネットを中心とした、ネットワーク技術が普及し、自己の情報を一定のセキュリティ管理の下リアルタイムで検索できる技術科確立されてきた。既に、一部のクレジットカード会社では、カード会社へ送信された利用データのリアルタイムの表示サービスを実施している。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の従来技術においては、以下のような問題があった。

(1) 契約上、クリア・分割・リボ等の支払方法がカード会員は選択できるが、自動的に引き落とされる仕組みのため、店舗カウンターにて、支払方法を指定しなければならず、店員の手前、クリア払いが、本来のカード会員に希望と異なって増えることになる。

【0006】この問題では、既にすべての利用をリボに登録する、リボ専用カードの発行など、対応する工夫がなされているが、この場合、すべてリボ残高に入り、支払える能力があっても、残高が残り、カード会員にとって利益のないリボ利子を支払わなくてはならない。

【0007】また、インターネットのWEBコミュニケーション機能を用いて、カード会社に登録された売上明細ごとに、後からリボに変更できる機能を提供している工夫も見られる。この場合、一定の効果をえられるが、売上データ単位のため、支払える金額単位ではなくなる。

【0008】(2) 月に一回の支払いであり、個人の資金繰りとかみ合わないケースが多い。たとえば、給料日の前に引落しがきたりする。このケースでも、銀行系のクレジットカードでは、銀行等のATM (Automatic Teller Machine) などから、一時的に支払えるような工夫が実施されている。しかし、あくまでも先に支払って利子を削減する効果をもたらすものであり、逆に、支払いのタイミングを遅らせる機能を提供するものではない。

【0009】(3) 利用明細の送付にコストがかかる。郵送料・制作費など、利用明細書の送付にはカード会社の多大なコストがかかる。発送頻度を多くしたいと考えても、このコスト負担を原因に増やせないでいる。このコスト負担を軽減するために、広告告知物を封入するなどの工夫を実施しているが、現実的には、量が増えすぎ、認知度が下がるなどの問題が生じている。

【0010】本発明は、カード会員が自由に支払方法及び支払い金額を決め、コンピュータネットワークを利用してその決済ができるようにしたシステムを提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】上記課題を達成するため、本発明のシステムにおいては、クレジットカードを利用した代金の決済方法において、前記クレジットカードの利用明細データをデータベースに格納し、前記データベース管理をするステップと、前記格納された当該利用明細データを登録されたカード会員のリクエストに基づき、コンピュータによる双方向通信網を利用して、検索し、表示し、更に前記カード会員が、希望する支払方法を指定し、または／及び、支払い金額を指定するステップと、各前記カード会員の利用の履歴、及び支払いの履歴を前記データベースに記憶して格納するステップと、前記記憶された履歴から、支払うべき残高、および利子を計算し、新たな残高を算出するステップとで構成されている。

【0012】前記カード会員が、希望する支払金額及び支払い方法を、前記コンピュータ双方向通信網を利用して、支払いの都度、指定することができる。また、前記支払方法において、前記カード会員が銀行口座自動引落しを希望し、予め設定された締切日の前であれば、希望する支払金額を自由に、指定、または、変更することができる。その前記支払方法では、クリア払い (一括支払い)、分割払い、リボ払い等の支払方法を設定できる。

【0013】そして、前記銀行口座自動引落しは、振込み欄に記載されたカード会社の指定するコードによって、個別識別が行われ、希望の支払金額を指定銀行口座に振り込むことによって支払いとなされるが、その引き落としに指示がないときは、無条件に残高を全額引き落とす、残高の指定比率で算出した額を引き落とす、残高が指定額未満の場合は全額を指定額以上の場合は指定額を引き落とすの何れかの方法を選択してその方法を設定

できる。

【0014】支払いにおいては、前記カード会員が、前記希望の支払金額をカード会社と提携した小売店舗の店頭で支払うこともできる。さらに、前記カード会員が、前記希望する支払金額を、前記カード会社のWEBサイトを利用して自由に指定し、その支払いを、デビットカードシステムを経由して、自身の銀行口座から、引き落とすこともできる。そして、利用明細の情報を、前記カード会員に電子メールにて、都度送ることを可能とする。

【0015】前記カード会員が利用したデータを、クリア払い処理のデータとして、扱い、あらかじめ定めた期日までに、支払いのなかった金額分については、自動的にリボ残高に移行され、前記カード会員が利用した前記クリア払いの処理のデータを、当月利用分と、前月利用分とにわけて管理する。

【0016】さらに、残高への引き当ては、任意の方法で入金した金額について、リボ残高に対する支払い、前月利用分に対する支払い、当月利用分に対する支払いを、優先順序を用いて、引き当てを行う。

【0017】ネットワークを利用した、クレジットカードの利用代金の決済手段において、前記クレジットカードの利用明細データをデータベースに格納し、前記データベース管理をする手段と、前記格納された当該利用明細データを登録されたカード会員のリクエストに基づき、コンピュータによる双方向通信網を利用して、検索し、表示し、更に前記カード会員が、希望する支払方法を指定し、または／及び、支払い金額を指定する手段と、前記カード会員の利用の履歴、及び支払いの履歴を前記データベースに記憶し、格納する手段と、前記記憶された履歴から、支払うべき残高、および利子を計算し、新たな残高を算出する手段と、で構成されている。

【0018】前記カード会員が、希望する支払金額及び支払い方法を、前記コンピュータ双方向通信網を利用して、支払いの都度、指定することができ、且つ、前記カード会員が銀行口座自動引落しを希望し、予め設定された締切日の前であれば、希望する支払金額を自由に、指定、または、変更することができる手段であるクレジットカード利用代金決済手段を記録した記録媒体である。

【0019】

【発明の実施の形態】次に、本発明のコンピュータ双方向通信網を利用したクレジットカード支払いシステムの実施形態を、図面を参照して詳細に説明する。

【0020】図1は本発明の実施形態における構成を示すブロック図である。図1を参照すると、この実施形態は、TCP/IP環境下の通信ネットワーク（インターネット）の構成を示している。

【0021】このインターネット（1-10）は、会員の所有するPC（Personal Computer）（1-9）とを結ぶ、ISDN（Integrated Services Digital Networ

k) のデジタル固定通信網を備えている。本発明では、会員が使用する端末は、WEBデータを扱えば構わないので、会員のPCは、インターネットサーフィンが可能なウェブブラウザを搭載した多数の携帯電話機でも構わない。さのためには、デジタル固定通信網に、通信プロトコル変換を行うゲートウェイ装置GWが接続されている必要がある。

【0022】携帯電話は、例えば、PDC（Personal Digital Cellular Telecommunication System）方式、PHS（Personal Handyphone System）方式である。

【0023】ここで、加盟店等の端末機とカード会社とのネットワークを利用したデータ交換の方法について加盟店舗を3通りに分けて説明する。

【0024】会員が店頭で利用したクレジットカードデータは、加盟店Aの店頭のPOS（Point of System）1で読み取られ、売上データとして作成され、店舗サーバ2を介して、クレジットカード会社に売上データ3として送付される。送付方法としては、MT（Magnetic Tape）の場合もあるし、専用線を利用した伝送の場合もある。また、別の加盟店Bでは、店頭に設置されたCAT（Credit Authority Terminal）4で読み取られたカードデータを、共用クレジットカードデータネットワーク（この図では、NTTデータ者の運営するCAFIS NETWORK）5を介して、カード会社にリアルタイムで伝送される。EC-WEBサイトに代表される、インターネットなどで実施される通信販売6など、店頭のない販売形態においても、同様に共用クレジットカードデータネットワークを介して、カード会社に売上データが送信される。

【0025】カード会社では、このように加盟店から送られてきた、売上データをデータ入力装置7を介して、明細データベース8に格納する。データベースは、会員からの検索に瞬時に対応できるため、リレーショナルデータベース等のDBMS（Database Management System）に管理されたデータベースであることが望ましい。また、これを実行するコンピュータは、24時間のアクセスに対して対応できる、FTC（Fault Tolerant Computer）であることが望ましい。

【0026】会員は、随時、会員PC9を介して、その時点までにカード会社が受け取った明細データを確認し、支払いに対して指示をすることができる。会員は、会員PC9から、インターネット10を介して、カード会社のWEBサーバに接続する。WEBサーバは、会員をあらかじめ会員ごとに設定した会員識別番号、及びパスワードを会員に入力させ、本人からの接続であることを確認する。これらの接続については、外部からの盗聴などに備え、SSL（Secure Socket Layer）等の技術を用いて、暗号化されている。

【0027】なお、この種のLANシステムは、LANシーケンスを実行するためのLANサーバ及びインター

フェース接続を行う I/F 回路、インターワーキングファンクション (IWF) サーバなどを備える構成も周知である。また、ウェブサーバ 11 に侵入防止用のファイアウォールアプリケーションを実装したり、ファイアウォールアプリケーション実行専用のサーバ、及び電子メールサーバとファクシミリ (Fax) サーバとが設けられる構成も周知である。

【0028】会員は、個人認証後、自由に自己のカードで支払った購買行動の明細データをカード会社の検索装置に対してリクエストすることにより、検索することができる。会員の検索リクエストは、会員 PC 9 の HTML データを解析・表示できるブラウザソフトウェア上の入力フォームのリクエストから、カード会社内に設置されているデータ検索装置 11 に送信される。データ検索装置は、会員のリクエストを解析し、必要な SQL (Simple Query Language) を生成し、明細データベース 8 に、送信する。明細データベースは、受け取った SQL を元に、データを検索し、必要に応じて集計を実行し、検索結果をデータ検索装置 11 に戻す。データ検索装置 11 は、検索結果を、WEB 作成装置 12 に渡し、WEB 作成装置は、あらかじめ用意されたフォーマットに、受け取った検索結果を埋め込み、会員 PC 上に表示すべき WEB データを HTML 形式で生成し、会員 PC 9 に送信する。

【0029】更に、同様な手法で、会員は、支払いデータ D/B 14 に対して検索をかけることにより、その時点までに支払われた金額、今後支払うべき金額などを検索・表示させることができる。会員は、これらの検索結果を踏まえて、支払方法を決めることができる。

【0030】会員は、会員 PC から、支払方法・金額を指示フォームに入力し、指示する。この情報は、データを受け取った、データ入力装置 13 が、解析し、支払いデータ算出装置 15 に送信される。支払いデータ算出装置は、支払いデータベースに対して、必要な情報を書き込む。締め日毎の処理として、支払いデータ算出装置は、支払いデータ D/B 14 を検索し、各銀行に依頼する引落しデータを作成する。作成された引落しデータ 17 は、各銀行に送られ、会員指定の口座から、算出された金額が自動的に引き落とされる。

【0031】また、会員が、自由に定めた金額を、銀行支店窓口や、銀行の ATM 19 で、振り込む場合、会員は、振込者の氏名欄の最初に、カード会社指定の識別番号を入れることにより、会員特定をし、希望する金額を振り込む。銀行内システム 18 で、これらの振込みデータは、カード会社の口座に振り込む処理を行い、その結果は、ネットワーク装置 16 を介して、支払いデータ D/B に反映される。

【0032】同様に、会員が、会員 PC 9 や、ブラウザ機能を搭載した携帯電話などで、振込み処理をインターネット 10 を介して、銀行に指示することができる。こ

の場合も、銀行内システムを介して、カード会社内の支払いデータ D/B が更新されることになる。

【0033】また、会員が、デビットカードによる支払いを希望した場合、支払いデータ算出装置 15 は、会員の入力した、銀行番号または名称、支店番号または名称、口座番号から、CAFIS ネットワーク 5 を経由して銀行サーバを呼び出し、残高の確認をした後に、引落とし、その結果を支払いデータ D/B に渡す。

【0034】また、会員が、小売店舗のカウンターで支払うことを希望した場合、会員は、まず会員 PC 9 から、インターネット 10 を介して、カード会社サイトにアクセスする。ここで、データ検索装置 11 を介して、自分の支払うべき金額について、確認する。カード会社システムは、支払いデータ D/B 14 から、当該会員の支払い額を検索し、WEB 作成装置 12 が、それを会員に通知、支払額を記入できるフォームを埋め込んだ、WEB の html データを創生し、会員 PC に表示する。会員は、自分の支払い希望する額を入力フォームに入力し、送信する。これを受信した WEB 作成装置は、払込指示書をイメージデータとして創生し、html データとして、会員 PC に送信する。会員 PC は、これを印刷し、コンビニエンスストアなど、加盟店 C の店頭に出向く。会員から手渡された指示書は、加盟店店頭 POS 20 で読み込まれ、払い込みデータが創生され、店舗サーバを介して、カード会社のネットワーク装置 16 に送られる。この払込データは、支払いデータ D/B に反映される。

【0035】本発明では、利用データが、カード会社に届いたタイミングで処理が始まる。図 2 は、その推移の例を示す。この例では、10 月に利用したデータがどのように推移するかを説明している。クレジットカードを店頭などで利用したデータが、10 月にカード会社に届いた場合、10 月の利用とする。これらのデータは、カード会社にデータが届いた瞬間から、カード会社の債権となる。と同時に、明細データベース 8 に登録され、会員は、会員 PC 9 を介して、その瞬間から検索することが可能になる。更に、検索できると同時に、支払いの対象として、支払うことが可能となる。

【0036】10 月月末までにカード会社に届いたデータは、11 月に、前月利用残高として、蓄積される。この債権については、クリア払い処理であり、月末までは、その支払いを待ち、入金があれば、引き当てられる。クリア払いで受けているため、11 月末までは、利子が発生しない。11 月末に、入金された額を差し引いた 11 月の利用残高は、リボ残高に自動的に編入される。以降、このような動作が連続して継続的に起こるのである。

【0037】さて、本発明では、前述した通り、会員が、自分で自由に支払方法を選択することが都度できる。本実施例では、銀行自動引落とし、銀行 ATM など、

現金自動入出金機による支払い、銀行窓口からの振込み、コンビニエンスストア等の加盟店小売てんのカウンターからの払込などから選べるようになっている。

【0038】まず、従来のクレジットカードと同様の自動引落しを希望する会員「甲」は、あらかじめ、書面にて引落し依頼書を、カード会社を通じて自分の口座のある銀行に提出しておく必要がある。

【0039】登録の済んだ会員は、自分のPC、または携帯電話を用いて、インターネットを介して、カード会社のサイトに、自身のIDと、パスワードでログインした後、毎月の支配について指示することができる。

【0040】まず、初期値設定として、特に指示がなかった場合、どのように自動的に引き落とすかを設定できる。「①無条件に全額引き落とす」「②残高の指定比率を自動的に引き落とす」「③残高が指定額未満の場合は、全額。以上の場合、指定額を自動的に引き落とす」などから選択でき、②の指定比率、③の指定額は、自由に設定でき、変更をすることができる。

【0041】たとえば、②で、60%を指定した場合、前月の利用額合計と、前月以前のご利用で支払いの済んでいない額と、それまでの利子合計を算出し、その合計の60%を、自動的に引落とし、残りを翌月以降に残す方式である。

【0042】ログインした場合、まず、引落としに対する金額変更の締切日が会員に通知される。これは、銀行にデータを渡す関係上、システムの締切日が存在することによる。もちろん、締切日の通知は、ログイン前に、会員にメールにて知らせることもできる。

【0043】締切日前であれば、会員は、次の引落としの額を変更することができる。ログインしたあとのWEBでは、まず、あらかじめ設定されている初期設定で算出された、あるいは、前回の修正後の、次回引落日予定額が表示され、と、同時に、現在当該カード会員が利用し、支払うべき全額が表示される。会員は、自分の経済状況を鑑み、次回引落日額を決定し、WEBで指定する。指定された結果は、支払いデータD/Bに記録され、占め日処理に反映され、銀行に引き落としデータとして渡されて、会員口座から引き落とされることとなる。

【0044】銀行の支店窓口、ATMなどから振り込む場合、会員は、自分の希望する金額を自由に振り込むことができる。その際に、当該振込みが、どのカードの支払いに対応するものなのかを明確にするために、振込み時に、その情報を書き込むことが必要となる。振込み者氏名欄に、会員ごとに発行される識別のIDを、記入させる方法でも良いし、その際に、誤記を防ぐ目的で、桁数を小さくしたい場合、カード会社は複数の振込先口座を用意し、各会員に異なった口座を割り振ることによって、桁数を小さくすることができる。たとえば、10万人の会員がいた場合、ひとつの口座だけだと、最低6桁

のIDが必要となるが、20口座をランダムに割り振ることにより、4桁のIDで間違いなく識別ができるようになる。

【0045】更に、誤記によるトラブルをさえるため、会員にあらかじめ識別IDの印刷された振込用紙を送付する工夫も考えられる。送付しなくても、インターネットを介して、WEBページとして会員に送付し、プリンタで印刷する方法で、郵送料をかけずに実現することも可能である。

10 【0046】このようにして、振り込まれた金額は、銀行のシステムを経由して、カード会社のシステムに伝送される。カード会社のシステムでは精査した後、支払いデータD/Bに反映させ、当該会員の支払い済情報とする。

【0047】同様に、会員が所有する銀行口座が、インターネット取引をサービスしている場合、会員は、会員PCを用いて、振込み処理を実施することができる。当該サービスは、銀行ATMからの振込みと同様な処理となるが、銀行システムと、カード会社システムが、あらかじめ連携を取ることができれば、より、会員にとって使いやすいものとなる。

【0048】会員は、あらかじめカード会社に対して、自分の支払い口座のある銀行を登録することにより、カード会社のWEBサイトで、前述の方法で支払額を確認した会員は、そのまま自分の銀行の口座サイトにジャンプしたり、別ウィンドとして銀行口座に関するサイトを開いたりすることができる。当然、この際には、本人確認など、銀行システムの要求するものを実施しなければならない。そのまま、会員は、二つの画面を見比べながら、支払額を指定し、振り込み処理を実行することができる。

【0049】このような連携ができれば、どの会員のどのカードの支払いが、システムの的に掌握することが可能であり、会員にとっても、非常にわかりやすい仕組みとなる。

【0050】更に、会員がデビットカードによる支払いを希望した場合、カード会社のサイトは、引落日の口座をまず会員に尋ねる。以前に利用した口座を本人の確認の元、保存しておき、同じ口座から引き落とすか尋ねても構わないし、あらかじめ、可能性のある口座を登録させ、選ばせるようにしても良い。銀行名、支店名、口座種別、口座番号が、明確になった後、支払うべき金額を入力させる。銀行名、支店名、口座種別、口座番号、金額、を、CAFI Sネットワークに接続し、暗証番号を入力させ、当該銀行に、有効性を問い合わせる。口座取引が有効であり、引落日処理が完了すれば、支払いは終了したものとし、支払いデータD/Bに情報を反映させる。

【0051】このように様々な方法で会員から支払われた情報は、支払いデータD/Bに保管され、管理され

る。その状況を説明したのが、図3である。この図では、9月まで利用のなかった会員が、10月以降利用を開始し、そのときの支払いと、残高の推移の関係を説明している。

【0052】10月に利用した126,500円は、当月の入金、20,000円で相殺され、11月時点の前月利用高は、106,500円(3-1)となっている。

【0053】11月には、前月利用残高に加え、11月に利用した、56,000円を加えて、162,500円が、合計金額となっている。さて、11月に支払われた50,000円は、本発明において、あらかじめ定められた優先順序で(例えば、記録されている古い残高、前月からの残高から。)引き当てていくため、ここでは、前月利用分に引き当てられ、前月利用分の106,500円(3-1)から50,000円を減じた、56,500円(3-2)が、繰越残高となって、12月に計上される。11月利用分は、引き当てる入金残高がないので、そのまま前月利用分として、12月に計上されている。

【0054】前月利用分のうち、支払いの残った、56,500円(1-2)については、利子計算がなされ、手数料1,130円(1-3)が計算される。このケースでは、実質年利26.8%としているので、月次利子2%となっている。

【0055】12月では、更に121,600円が利用された結果、前月利用残56,000円と、繰越残高56,500円とを加え、合計234,100円の支払うべき合計となる。このうち、12月に入金された80,000円は、まず、もっとも優先順序の高い繰越引当に

使われ、更にあまった23,500円については、前月分の引当に使われている。

【0056】同様な計算を繰り返すが、1月には、新たに、利子として、11月末時点に計算された、11月分の利子1,130円(1-3)が支払うべき項目に算入されている。

【0057】このように、利用された金額について、当月のうちに入金することもできるし、従来のクレジットカード同様、前月分をまとめて、翌月に入金することもできる。更に、翌月に支払い終わらなかった残高については自動的に従来のリボ残高に移行されることを実現することができるのである。

【0058】更に、支払いにおいては、電子マネー(e-cash)を利用することも考えられる。この場合、カード会社は、銀行、および、電子マネー運営会社の加盟店となり、当該会社の指定するアプリケーションをサ

ーバ上にインストールして利用することとなる。また、会員が、利用した金額よりも多く入金した場合、これらの金額を前払い処理として、その後の支払いに充当することもできる。

【0059】

【発明の効果】以上の説明から明かなように、本発明のコンピュータ双方向通信網を利用したクレジットカード集金方法によれば、会員は、不要な利子負担をすることなく、常に自分の利用したクレジットカードの利用総額をコントロールしながら、自分の経済状況に合わせた支払いを実行することが可能となる。

【0060】この結果、カード会社は、より顧客の要望に見合った支払手段を提供することから、利用頻度の高いクレジットカードの発行が可能となるのである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態における構成を示すブロック図である。

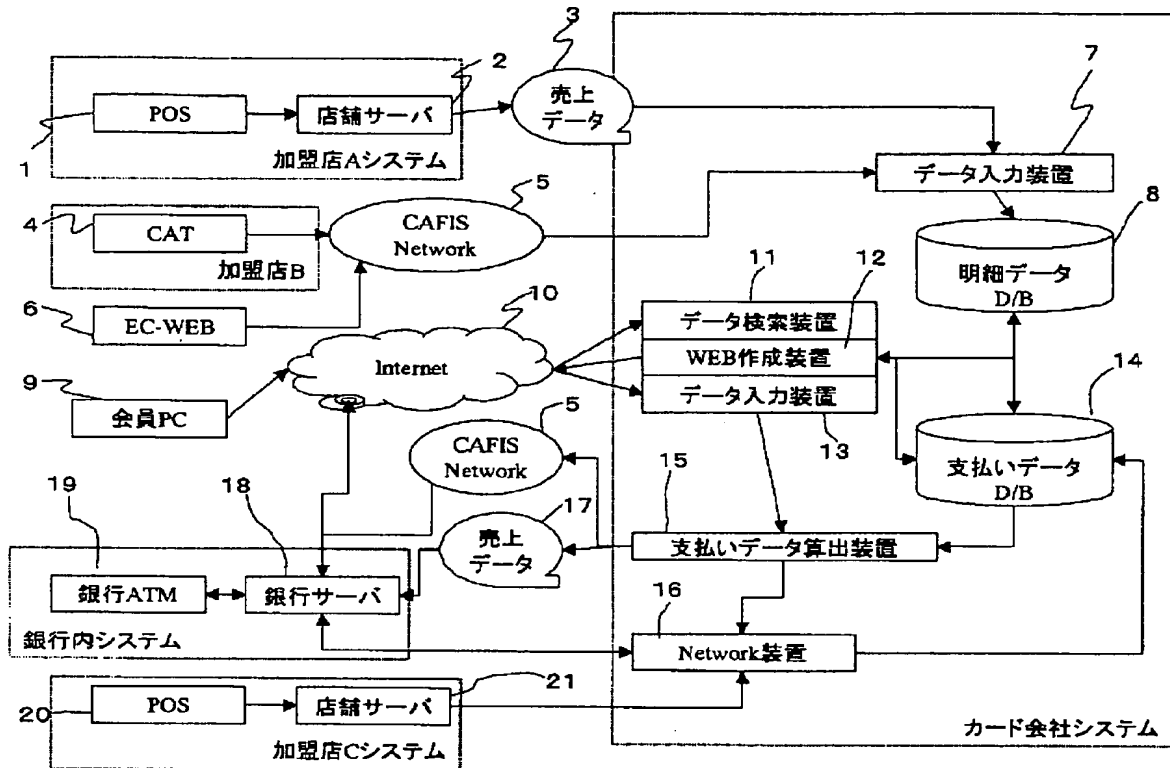
【図2】会員が、利用をしたケースの支払いのタイミングを表現した図である。

20 【図3】会員が、利用し支払っていった際の残高の推移を示す図である。

【符号の説明】

- 1 加盟店A用店頭POS
- 2 加盟店A用店頭サーバシステム
- 3 加盟店Aのクレジットカード売上データ
- 4 加盟店B設置のCAT
- 5 CAFIS ネットワーク
- 6 加盟店EのEC-WEBサーバ
- 7 カード会社データ入力装置
- 8 カード会社明細データD/B
- 9 会員PC(携帯電話)
- 10 インターネット
- 11 カード会社データ検索装置
- 12 カード会社WEB作成装置
- 13 カード会社データ入力装置
- 14 カード会社支払いデータD/B
- 15 カード会社支払いデータ算出装置
- 16 カード会社ネットワーク装置
- 17 引き落としデータ
- 18 銀行内システム
- 19 銀行ATM
- 20 加盟店C店頭POSおよびサーバ
- 31 10月分当月繰越残高=11月分前月ご利用残高
- 32 11月分以前繰越残高=12月分繰越残高
- 33 11月分利子=1月分支払利子

【図1】



【図3】

	9月以前	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当月ご利用金額合計	—	¥126,500	¥50,000	¥121,600	¥50,500	¥56,000	¥48,000
前月ご利用金額残高	—	¥0	¥506,500	¥56,000	¥121,600	¥0	¥6,650
繰越残高	—	0	¥0	—	¥32,500	¥0	¥0
利子	0	¥0	0	¥0	¥1,130	¥650	¥0
合計	¥0	¥126,500	¥162,500	¥234,100	¥215,730	¥56,650	¥54,650
月末までのご入金合計	¥0	¥20,000	¥50,000	¥80,000	¥215,730	¥50,000	¥20,000
繰越引当	¥0	¥0	¥0	¥56,500	¥33,630	¥650	¥0
前月利用引当	¥0	¥0	¥50,000	¥23,500	¥121,600	¥0	¥6,650
当月支払い	¥0	¥20,000	¥0	¥0	¥60,500	¥49,350	¥13,350
翌月繰越合計		¥106,500	¥112,500	¥154,100	¥0	¥6,650	¥34,650
当月分として		¥106,500	¥56,000	¥21,600	¥0	¥6,650	¥34,650
以前分として		¥0	¥56,500	¥32,500	¥0	¥0	¥0
(利子)2ヵ月後		¥0	¥1,130	¥650	¥0	¥0	¥0

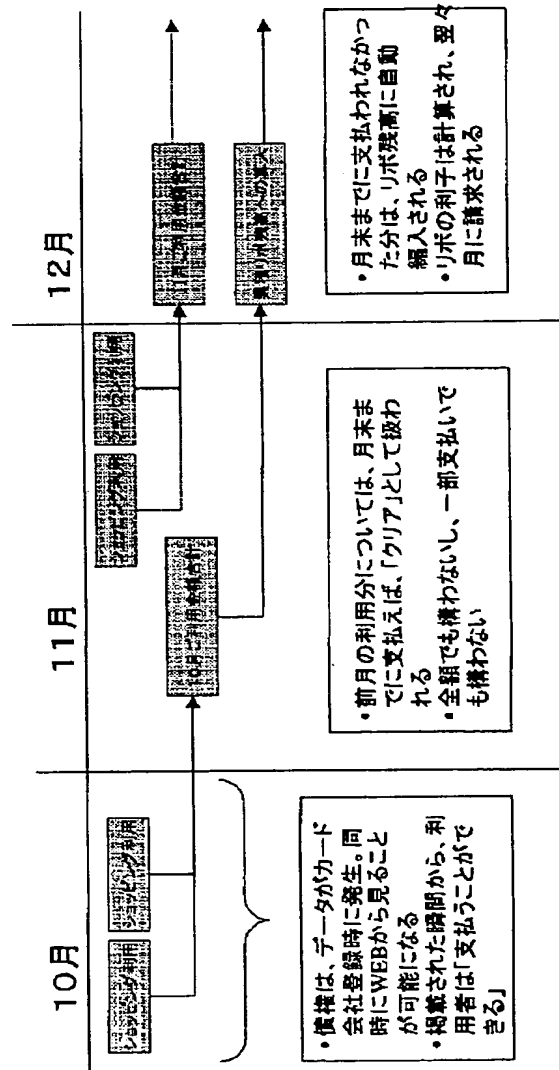
※) 実質年利26.8% (月2.0%)で算出

31

32

33

【図2】



フロントページの続き

(72)発明者 辻本 宗男
大阪府大阪市此花区西九条五丁目3番28号
ナインティビル マイトリップ・ネット
株式会社内

(72)発明者 和田 俊弘
大阪府大阪市此花区西九条五丁目3番28号
ナインティビル マイトリップ・ネット
株式会社内

(72)発明者 伊藤 壽浩
東京都新宿区市谷仲之町3-14 市谷仲之
町テラス 日本提携カード代行株式会社内

(10)

特開 2 0 0 2 - 1 8 3 4 4 5

(72) 発明者 林 一浩

神奈川県川崎市高津区子母口426番地 1 -

213